

優品選・新春を寿ぐ【近現代工芸】



木村雨山《染色馬二曲屏風》
ー「優品選・新春を寿ぐ」よりー

■ 加賀藩の美術工芸Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 茶道美術名品展【古美術】

■ 書之美【近現代書】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 没後40年 鴨居玲展ー見えないものを描くー
- 学芸室こぼれ話
- 1月の行事予定
- 尊經閣文庫分館 講座&ギャラリートーク

加賀藩の美術工芸Ⅱ

12月27日(土)～2月2日(月)

新年のご挨拶

館長 青柳 正規

能登の1日も早い復興を祈念して開催された「ひと、能登、アート」展は、東京国立博物館をはじめ、都内を中心とした30の美術館などが、それぞれを代表する名品を出品くださった、まさに夢のような展覧会でした。災禍に立ち向かう能登の人々を、芸術の力で少しでも励ましたいという温かな思いが込められていました。

はじめ私は「東博の光琳筆《風神雷神図》は京博寄託の宗達筆と何が異なるのか」、「《見返り美人図》のしなやかにひねられた姿態は、解剖学的にどう読み解けるのか」、さらには「今回出品された《麗子像》は、劉生が描き続けた数多の麗子像の中でどのような位置づけにあるのか」などと、作品の背景や比較に思いを巡らせていました。しかし、次第にそのような知識や分析を越え、ただ作品が放つ美しさ、その存在そのものを味わうことこそ大切なのではないか——そう感じるようになりました。

そう思えたとき、各館が誇る逸品を、復興祈念だからこそ遠く金沢まで送り出してくださった館長・学芸員の方々の思いやりに、ふと触れたような、不思議に胸温まる気持ちがありました。アートに向き合う際、作品の来歴や技法を知ることによって理解が深まることは確かです。しかし同時に、アートは、見る人それぞれに固有の感動と問いを呼び起こしてくれます。ですから、もしアートを楽しまたいとお考えなら、知識に縛られすぎる必要はありません。森の中で深呼吸するように、美術館という静かな環境の中で、作品と向き合い、心を遊ばせていただければと思います。どうぞ「美術館浴」を存分に楽しんでください。

前田育徳会からお預かりしている美術工芸品を、4回にわけて紹介してきましたが、最終回となる今号では、加賀象嵌^{あぶみ}と加賀藩の御用をつとめた絵師について紹介します。

鎧とは、馬に乗る時に足をのせる道具で、頑丈な鉄でできています。その鉄に、異なる金属である銀や金で模様を嵌めこむ象嵌という技法で、動植物・調度・吉祥文・幾何学模様などが施されています。受注生産（オーダーメイド）のため、同じ模様のものはふたつとありません。多くの金工職人が暮らす江戸時代の金沢は、鎧の一大産地でした。

Ⅱ期では、人間国宝の中川衛さんが、象嵌の仕事を始めるきっかけになったという《金銀水引象嵌鎧》をはじめ、4点の鎧を紹介します。

加賀藩に仕えた御用絵師として、Ⅰ期では梅田九

栄を紹介しましたが、Ⅱ期で展示するのは、佐々木泉景・泉玄の作品です。

大聖寺に生まれた佐々木泉景は、幼い頃から絵に優れ、京都にて狩野派の石田幽汀・鶴沢探索に学びます。帰郷後は加賀藩の御用を務めるようになり、江戸時代後期には金沢城二の丸御殿の障壁画を手がけました。

本特集で紹介するのは、泉景による《日出図》《寿老・鶴図》のほか、子の泉玄が描いた《越中愛本橋図》です。富山県の黒部川に架かる愛本橋は、五代綱紀の命によって架けられたもので、後世まで藩主の功績を称えるために描かれたと考えられます。



《金銀水引象嵌鎧》

近現代工芸(第5展示室)

優品選・新春を寿ぐ

12月27日(土)~2月2日(月)

近現代工芸を展示する第5展示室では、新春を祝う展示を開催しています。

表紙で紹介したのは、本年の干支、堂々たる体躯の馬が2頭、水辺で遊ぶ様子をあらわした、友禪の人間国宝・木村雨山の《染色馬二曲屏風》です。木村の作家活動初期の作風がよくあらわれた作品で、写実描写と装飾性が絶妙なバランスで共存しています。屏風は通常、絵などが描かれた「本紙」の周囲に「表具裂」を巡らせて、装飾性と画面の保護を兼ねています。本作の画面の周りには、表具裂の代わりに、木製の額のような装飾が描かれています。江戸時代後期にかけて、表具裂を使用せずに友禪などの染織技術による掛軸が制作されましたが、その流れを汲む染絵の名工・上村雲嶂に師事した、木村ならではの作品です。

樹木としての寿命が長く1年中緑を保つ松、雪にも折れることのない竹、寒い冬に花を咲かせる梅は「嚴寒三友」と称され、松竹梅は平安と長寿を願う図柄として親しまれてきました。今回、蒔絵の人間国宝・寺井直次の作品から、昭和26年(1951)第7回日展出品作《竹林図屏風》、同50年(1975)第22回日本伝統工芸展出品作《金胎蒔絵水指「梅」》の2点を展示します。いずれも白漆地の作品ですが、一方の屏風は力強さと瑞々しさが感じられる、写実的な傾向の図柄、対する水指は梅の幹を描かず、花と枝のみを空間に配した意匠性の強い作品です。展示室でじっくりと比べて見てください。



寺井直次《金胎蒔絵水指「梅」》

古美術(第2展示室)

茶道美術名品展

12月27日(土)~2月2日(月)

前号につづいて『東都茶会記』から、明治時代の数寄者・高橋箒庵が金沢の山川家を訪ねた記述をご紹介します。《和蘭陀白雁香合》を「天下第一の白雁」と称賛したのはじまり、数々の香合を絶賛します。

《宋胡録柿香合》については、「非常の出来にて苦しと云はんか、憎しと云はんか、褒め方に一工風を要す可きものならん」と、讀えるにせよ、その言葉が容易に見つからない心境を吐露しています。野々村仁清の《色絵花笠香合》については、「地体甘き方の物なれども、其形好く彩色美事なるに浮かされて一度は老いのかざし為し、茶友を驚かさばやと思ふ心の出で来る程なりし」と、その美しさに心が躍ったことを記します。そして、山川家の香合コレクションについては「当家の独擅場なるが如く感ぜられ、呉州の赤玉其

他堆朱青貝に至るまで皆な一粒選なりしは誠に快心の限なり」と絶賛するのです。

箒庵が同書で詳しく述べたのは陶磁器の香合ばかりですが、本特集では箒庵も少し触れた、利休所持と伝える《青貝福祿寿香合》、《青貝司馬温公図香合》、《紅花緑葉笛吹老人香合》など、漆の香合も紹介します。

なお、仁清の《色絵雉香炉》については、「傳彩精巧生けるが如く殊に其長きしだり尾の斑紋など真に迫りて陶器と思はれず」「真に仁清の大作且つ傑作と云ふべきなれ」と述べ、「名器に名残を惜しみて」山川家を後にしたとあります。

本特集を、国宝《色絵雉香炉》とあわせてお楽しみください。



野々村仁清《色絵花笠香合》

優品選

12月27日(土)～2月2日(月)

日本画作品を展示する第6展示室では、季節の優品とお正月というハレの空間に相応しい作品を展示します。吉田秋光の《松に白鷹図》は、全面金地の二枚折屏風に、群緑あざやかな松葉の枝に白鷹がとまるめでたい意匠です。日本画が物語や精神性にプラスして、季節やシーンに応じて空間を飾ってきたという役割も伝わります。

油彩画分野からは、村田省蔵の《凜として》を展示します。村田の得意とした120号の縦長の構図で、画面中央に大きな枝ぶりの稲架木を描きます。十数年来作者が追求してきた里山風景であり、朝焼けあるいは夕焼けに照らされ、わずかに赤く染まる様子や、日本海地域の澄んだ冬場の空気を、臨場感豊かに写し取っています。

脇田和の素描作品の中には、鳥と共に表現された裸婦のほか、《女の集り》《三婦人》など、女性をテーマにユニークな視点で取り上げた作品があります。画題と共に心なごむ脇田の女性へのまなざしを、穏やかで柔らかな色彩で表現した作品からは、作者の温かな人柄を垣間見ることができそうです。

彫刻分野では、木戸修《スパイラル・リング#3》をご紹介します。メビウスの輪のようにねじれながら円弧を描くひとつなぎの形。木戸はコンピューターや加工器具を用いて、複雑な螺旋構造による金属彫刻を制作しています。ねじれた円弧に周囲の風景を映す本作の、展示室でみせるその表情をお楽しみください。



脇田和《三婦人》

書之美

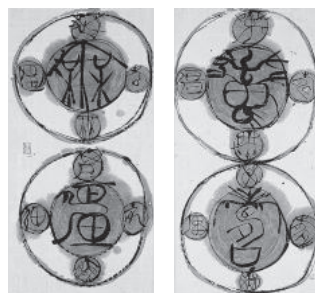
12月27日(土)～2月2日(月)

当館所蔵の近現代の書作品は、それぞれが様々な性格を含んでいます。例えば、形態の違いでは額装、軸装、卷子、屏風、また、文字の種類では仮名や漢字がありますが、漢字の中にも甲骨文字、篆書、隸書、行書、草書、楷書の違いがあります。また、篆刻は紙に筆で書かれたものではなく、石に文字を彫ってそれを写し取った作品です。制作思想に注目してみると、文字の造形性を強調して文字数を限定した表現の少字数書や、文字性から離れて制作された前衛書があります。また、制作者の立場に注目すると、禅に関わる僧の書である墨跡や、書家以外の芸術家などの書を挙げることもできます。

鑑賞が難しいと敬遠されがちな書作品ですが、このような多層性の性格を1つずつ見つけていくこと

は、書作品を身近に感じていただく入口になることでしょう。また、書の作品の鑑賞方法は、文字を「よむ」ことで「わかる」という鑑賞だけが正解ではありません。絵画作品のように「みる」ことで、その造形や描写の美しさなどに「気づく」という鑑賞もあります。具体的には、書かれた文字自体の形や毛筆と墨と料紙とによって表された筆線の美しさ、多彩な墨色の美しさ、文字や行の織り成す余白、文字を構成する線や空間を変形させたおもしろみ、筆の動きが生み出すリズムなどに目を向けてみる鑑賞です。

今回の展示で、このような今までは視点を変えた鑑賞の仕方、書作品と向き合ってみるのはいかがでしょうか。



表立雲《万寿無疆》

第8・9展示室

第31回 北陸国展

1月9日(金)～12日(月・祝) 会期中無休

北陸国展は北陸在住の国展出品者を中心に構成され、今年で31回展となりました。

国画会(国展)は昨年99回を迎え、毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体で、令和8年は100回記念国展を開催いたします。草創期の絵画部には梅原龍三郎、香月泰男らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。

北陸国展での成果が毎年、国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部19名、写真部16名が力作、大作を若手の新作も交えて約50点発表いたします。是非ご高覧下さいませようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇後援 北國新聞社、テレビ金沢

◇連絡先 北陸国展事務局 横江昌人

能美市秋常町二5-1

企画展Topics

没後40年 鴨居玲展 —見えないものを描く—

2月11日(水・祝)～3月15日(日) 会期中無休

洋画家・鴨居玲(1928～1985)が突然この世を去って40年。以来5年おきに開催される全国巡回の回顧展は、当館でもお馴染みとなりました。「見えないものを描く」を副題に掲げた本展では、モティーフを章ごとに取り上げる構成としました。「興味があるのは人間だけ」といえる鴨居玲が求め描いたのは、悲哀や愚かしさなど人間の内面であり、目には見えないものでした。酔っ払いや教会というモティーフは、そんな見えない何かを表現するツールだったといえます。

そして今回は、展覧会では初公開となる陳舜臣著『弥縫録』に鴨居が描いた挿絵93点も展示します。『弥縫録』は『週刊読売』に1978年4月16日号から1980年5月25日号まで112回連載された、中

国の名言を下敷きにしたエッセイです。鴨居が描く油絵には、人間の内面から滲み出る、時折くすりとせられる独自のユーモアがあります。一連の挿絵には鴨居のそんなユーモアセンスが凝縮されています。

また毎回注目を集める鴨居玲展の関連イベントは、「鴨居玲の世界」を身体で表現する映像とパフォーマンス「鴨居玲オマージュ」です。演ずるのは世界でも希少なコーポリアルマイム実力派「tarinainanika(タリナイナニカ)シアターカンパニー」。目の前を疾走する75分間の映像とパフォーマンスは全く新しい体験です。

(令和8年2月22日(日)2回公演、入場無料、詳細は次号)



鴨居玲《肖像》1985年 個人蔵

第7・8・9展示室

第36回 志賀町を描く美術展金沢展

1月15日(木)～18日(日) 会期中無休
(17時閉室)

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて生まれてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、志賀町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品までの洋画・日本画・水墨画・水彩画などの作品を富来展と金沢展の二会場で展示しております。

◇入場無料

◇連絡先 志賀町生涯学習センター

羽咋郡志賀町高浜町カ1-1

電話…0767-3212970

第8・9展示室

第34回 石川独立DO展

1月22日(木)～25日(日) 会期中無休

◇入場無料
◇連絡先 堀一浩

電話…090-4326-5849

石川独立は、昭和54年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、東京・国立新美術館で毎年開催されており、今年は92回を数えます。自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。

今回は1室を能登復興をテーマとした作品を中心に展示し、24日には出品者である西又浩二による「能登復興を願って」の講演会を同館ホールにおいて行います。同日24日に出品者全員による批評会も行い、作家それぞれの作品に対する思いが理解できる機会ともなっています。一般の方からのご質問やご意見を伺うこともできますので、是非ご参加ください。

第7展示室

2026 一陽会石川支部展

1月21日(水)～25日(日) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先 一陽会石川支部支部長 竹田明男

電話…076-248-5989

一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉勵し、新時代の美術を推薦とする。先鋭なる未完成こそ推薦し、前人未到新分野の確立に努力するものである」この精神をふまえ、日々研鑽努力してきた渾身作を展示いたします。美術愛好家の方々にご覧いただいて、ご教示いただければ幸いに存じます。

昨春秋、六本木の国立新美術館で開催されました第71回記念一陽展(10月1日～13日)に出品しました石川県在住・出身作家の絵画・彫刻作品あわせて19点を展示します。

第7展示室

令和7年度 金沢大学人間社会学域学校教育学類 美術教育専修 卒業制作展覧会

1月31日(土)～2月3日(火) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先 金沢市角間町 金沢大学
金沢大学人間社会学域学校教育学系

江藤望
電話…076-264-5582

絵画・彫刻の各分野の学士課程による令和7年度卒業制作作品を展示いたします。

これらの作品は主に教職を目指す学生が、地道な努力と創造的な研究の成果として制作し完成させたものです。未熟ではありますが、自身の4年間の大学生活の集大成として制作しました。ぜひ、ご覧ください。そしてご意見・感想など賜れますと幸いです。

なお、在科生と今年度退職する教員の作品も展示いたします。あわせてご覧ください。

第8・9展示室

'25 玄土社書展

1月30日(金)～2月1日(日) 会期中無休

玄土社の2025年中の歩みをまとめた創作(抽象)41点、古典臨摹(写し)14点をお目にかけます。

玄土社創設者の表立雲が逝去し5年が経とうとしております。私達は立雲の理念(自由な個性の發揮・忠実な古典の追体験)を胸に、今日も揺れることなく活動を続けています。

特別展示として、昭和20年代・黎明期の表立雲作品を展示します。

◇入場無料

◇連絡先 玄土社本部(表)

金沢市本多町1-7-15
電話…076-263-3730

1月の行事予定

■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：1月11日(日) 11時～11時30分 *申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

■寒糊吹き

大寒の時期に文化財修復に使う糊(接着剤)を仕込みます。作業の様子を自由にご覧いただけます。

日時：1月20日(火) 9時30分～15時

場所：石川県文化財保存修復工房周辺

*見学無料、申込不要

*荒天中止

尊経閣文庫分館 講座&ギャラリートーク

加賀藩前田家が築いた知の宝庫「尊経閣文庫」は、石川の文化を象徴する多彩な文化財を伝えています。当館の尊経閣文庫分館では、その貴重な文化財を紹介しています。尊経閣文庫の所蔵品や加賀藩前田家の歴史・文化政策について、学芸員が毎回テーマを変えて解説します(全3回)。

日時：①1月17日(土) ②2月14日(土)

③3月7日(土) 各回13時30分～15時

講師：谷口 出(当館副館長)

会場：講義室および尊経閣文庫分館(展示室)

料金：要コレクション展観覧料

*要申込、1月5日(月)10時より受付開始(詳細は兼六園周辺文化の森ウェブサイトにてご確認ください)

お問い合わせ：石川県文化振興課

(電話)076-225-1371



詳細はこちら

学芸室こぼれ話

竹内唯(普及課学芸主任)
「いま展示図面をつくっているのですが、」

展示室のイメージをかたちにするための私の私は、メジャーです。目盛りテープ部分が金属製の固いタイプで、周りではスケールとも呼ばれています。

自席でPCに図面データを表示しながら、空中にメジャーを立ててみたり(※写真)、床から伸ばしたりして、展示をイメージします。具体的には、作品のサイズや高さや鑑賞者の身長バランスはどうか、章解説パネルのサイズが鑑賞者との距離に比して小さすぎないかなど、メジャーを伸び縮みさせながら考えています。

そうやって完成した図面をもって展示作業に臨みますが、実際に作品を置いてみてから、現場で間隔や高さを調整することも。最後は、作品の力に助けられて空間ができあがります。



奈良 竜一(学芸第一課学芸主任)
「ホッと一息」

仕事の合間や、ちょっと喉が渴いたときに一息つくために、よくお茶を飲みます。

そのときに使うマグカップは、旅先の窯元などで少しずつ集めてきたお気に入りばかり。持ちやすさや重さ、見た目、容量などをじっくり比べて選んだもので、どれも自分にしっくりくる使い心地です。いま使っているのは写真の左側のカップ。右側はその前のお気に入りです。

これを見て、どこのやきものか分かった方はかなりのやきもの好きですね。

ヒントを少し——

左のカップは、西日本のある窯業地で、戦後に若者5人の情熱から始まったやきものです。ブルーの釉薬が有名です。

右のカップは、東北のやきもので、細かな貫入が特徴。貫入が入るときの「ピン」という音が美しい、ともいわれます。

さてさて、どこのやきものでしょう？



没後40年 鴨居玲展－見えないものを描く－

企画展Topics

会期：令和8年2月11日(水・祝)～3月15日(日)

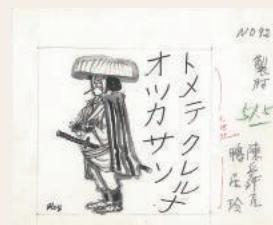
会期中無休



《教会》1976年 ひろしま美術館蔵



《1982年 私》1982年 石川県立美術館蔵



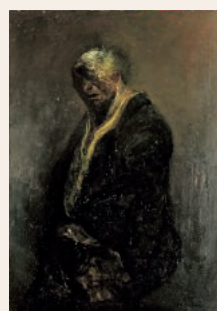
《弥縫録》1978～80年 個人蔵



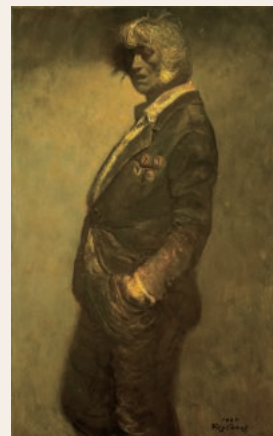
《サイコロ》1969年 笠間日動美術館蔵



《廃兵 (A)》1983年
笠間日動美術館蔵



《私の村の酔っ払い》
1973年 ひろしま美術館蔵



《勲章》
1985年 笠間日動美術館蔵

次の展覧会

令和8年2月7日(土)
～3月15日(日)

<p>前田育徳会 尊経閣文庫分館</p> <p>近代の日本画 一橋本雅邦・山元春挙・ 川端玉章－</p>	<p>第2展示室</p> <p>特別展示 仏教の絵画</p>
<p>第3・4・6展示室</p> <p>優品選 【近現代絵画・彫刻】</p>	<p>第5展示室</p> <p>花の器 【近現代工芸】</p>
	<p>企画展示室</p> <p>没後40年 鴨居玲展 －見えないものを描く－ 2月11日～3月15日</p>

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
1月5日は第1月曜日より
コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

1月の休館日は
1日(木)～3日(土)

知識・経験ゼロから
デザインを学んで
在宅ワークを実現しませんか。

TRY IT, NOW.
Design Life

広告代理店が運営する **デザインスクール** 広告

キテンスクールの
オンライン授業なら…

1 オンラインで好きな時間に
マイペースで学べます

2 スキルアップ・副業・転職
独立・趣味に活かれます

詳しい資料の
ご請求はこちら

キテンスクール
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-17
tel:072-668-3275
運営／株式会社ウィット

石川県立美術館だより
第507号(毎月発行)
2026年1月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。